

## 植 物 研 究 雜 誌

## THE JOURNAL OF JAPANESE BOTANY

第 十 卷 第 三 號 (通卷第九十一號) 昭和九年三月發行

## 日 本 産 銹 菌 類 雜 記 (其二)

平 塚 直 秀

Naohide HIRATSUKA: Notes on Japanese Rust Fungi (II)

13. *Uromyces Wedeliae* P. HENN.

はまぐるま *Wedelia prostrata* HEMSL. フ寄主トスル本種ハ、吉永虎馬氏ガ土佐國伊尾木村デ採集サレタ標品ニ基イテ 1904 年 P. HENNINGS 氏 (*Hedwigia* XLIII, p. 150, 1904) ガ始メテ命名記載サレタモノデ、今日迄土佐國以外デ採集サレタト云フ記録ガナイ。然ルニ著者ハ 1930 年 12 月 23 日 紀州瀬戸鉛山ノ海岸デ同菌ヲ多量ニ採集シ、ツイデ翌年 12 月下旬橋岡良夫君モ同地附近デ發見サレ、更ニ著者ハ昨秋 (1933) 11 月 5 日 伊豆川奈附近海岸デ發見採集シタ。此等ノ採品ニヨツテコノ銹菌ハ本州南部ノ太平洋面海岸ニ廣ク分布シテ居ル事ガ判明シタ。ナホ本菌ノ生活史ハ未ダ不明デアツタガ、今回ノ伊豆川奈海岸ノ採品ニヨツテ Brachy-form デアル事ヲ確認スル事ガ出來タ。即チ、同菌ハ銹子腔時代ヲ缺除スル同種寄生種デアル。本菌ノ精子器時代 (Spermatogonial stage) ノ記述ハ未ダナイカラ次ギニ簡單ニ記シテ置ク。「精子器ハ葉ニ生ジ、多クハ表面生、稀レニ莖ニ生ズル事モアル。多クノ場合多數群生スル。橙黃色ヲ呈ス。表皮下ニ形成サレ、球形又ハ擬球形、徑 120-170 $\mu$ 。孔邊絲狀體ヲ有ス。精子ハ橢圓形或ハ長橢圓形、7-9 $\times$ 4-6 $\mu$ 、無色、平滑。」

14. *Uromyces Hyperici-frondosi* (SCHW.) ARTH. et DIET.

本種ノ我國領土内ニ産スル事ノ最初ノ報告ハ 1922 年 P. DIETEL 氏 (*Ann. Myc.* XX, p. 293, 1922) ニヨツテ、吉永氏ガ土佐國デ採集サレタひめをとぎり *Hypericum japonicum* THUNB. 上ノ標品ニ基イテナサレタモノデアル。其後久シク土佐國以外ニ産スル事ガ知ラレナカツタガ、昨年 (1933) 橋岡君ハ

ひめをとぎり＝寄生スル同菌ヲ臺灣臺北州草山デ採集サレタノデ、其ノ旨ヲ同君ト共著ノ“Uredinales collected in Formosa I (1933)”＝報告シテ置イタ。

ナホ著者ハ 1929 年 10 月 6 日鳥取市郊外稲葉山デみづをとぎり *Elodea japonica* BL. 上＝本菌ノ寄生シタモノヲ發見シタ。蓋シ、みづをとぎりハ本種ノ新寄主植物デアル。此ノ銹菌ハ北米大陸デハ極普通＝*Elodea virginica* NUTT. (= *Hypericum virginicum* L.) ＝寄生スルサウダガ、みづをとぎりハ同植物＝極メテ近縁ナモノデアル。

#### 15. *Uromyces Muehlenbergiae* ITO.

コノ菌ノ寄主植物トシテハ從來ねずみがや *Muehlenbergia japonica* STEUD. ガ知ラレテ居ツタノミデアルガ、著者ハ先年 (1925 年 10 月 7 日; 1926 年 10 月 20 日) 札幌郊外藻岩山山中デおほねずみがや *Muehlenbergia Huegelii* TRIN. ＝寄生スルモノヲ發見シタ。同菌ノ新寄主植物トシテ報告スル。

#### 16. *Uromyces Saururi* P. HENN.

はんげしやう *Saururus Loureiri* DECNE. ノ葉＝寄生スル本種ハ 1902 年 P. HENNINGS 氏 (*Hedwigia* XLI, p. (19), 1902) ガ吉永氏ノ土佐＝於ケル採品＝基イテ命名記載サレタモノデ、最近迄其ノ產地ハ土佐國＝限ラレテ居ル様＝考ヘラレテ居ツタ。然ル＝近年、著者ハ此ノ銹菌ヲ因幡 (鳥取市・宇倍野村・稲葉村)、但馬 (濱村)、丹後 (吉津村) 等山陰地方各地デ發見シ、シカモ同地方デハムシロ普通＝産スル種類ノ一ツデアル事が判明シタ。

#### 17. *Xenodochus minor* ARTH.

コノ珍種ハ 1912 年 J. C. ARTHUR 氏 (*N. Amer. Fl.* VII, p. 182, 1912) ガ命名記載サレタモノデ、其ノ基本標品ハ W. T. HORNE 氏ガ 1902 年アラスカノ Kadiak 島デ採集サレタ *Sanguisorba microcephala* PRESL. ＝寄生セルモノデアル。

著者ハ 1928 年 7 月本種ヲ南樺太突岨山中デたかねたうちさう *Sanguisorba sitchensis* TRAUTV. et MEY. 上＝發見シ、1931 年 拙著報文 “Zweiter Beitrag zur Uredineen-Flora von Südsachalin” ＝其ノ旨ヲ報告シテ置イタガ、ナホ著者ハ 1927 年 8 月 14 日＝北海道大雪山彙北海岳 (海拔約 2000 m. ノ個所) デ採集シタ同様たかねたうちさう＝寄生シタ同菌ノ標品ヲ持ツテ居ル。

ARTHUR 氏カラノ最近ノ通信ニヨレバ同菌ハ基本標品ト日本＝於ケルコノ著者ノ 2 採品ノ外ニハ標品ヲ見ナイシ、報告モ聞カストノ事デアルカラ、マコト＝稀品＝屬スルモノデアル。

本菌ハミクロ型短世代種デアリ、極地高山種トシテ取扱ヒ得ルモノト思フ。

18. *Uredo nervicola* TRANZSCH. (Ann. Myc. V, p. 551, 1907).

著者ガ 1924 年 7 月 17 日北海道根室國落石岬附近デ發見シタきじむしろ *Potentilla fragarioides* L. ノ葉上ニ寄生セル銹菌ヲ *Uredo nervicola* TRANZSCH. ト檢定スル。我ガ銹菌「フロラ」ニ新ニ加ハル種類デアル。

本種ハ D. LITVINOV 氏ノ滿洲 [原記載ニハ “Prope Jrekte (ad viam ferream) in montibus Chinganiceis Manshuriae occidentalis” トアリ]ニ於ケル採品ニ基イテ W. TRANZSCH. 氏 (1907) ガ命名記載シタモノデアル。

19. *Pucciniastrum Fagi* YAMADA.

ふな *Fagus Sieboldi* ENDL. ヲ寄主トスル本菌ハ今ヲ去ル約 30 年前山田玄太郎、澤田兼吉兩氏ガ陸中國各地デ採集サレタ標品ニ基イテ山田氏ガ新種ト認定サレ、其ノ公表ハ 1930 年著者ノ報文 “Pucciniastrum of Japan” (植物學雜誌第 46 卷 p. 280, 1930) 上ニナサレタ。サテ、コノ銹菌ノ分布ハ今日迄陸中ノミニ限ラレテ居ル様ニ思ハレテ居ツタガ、昨秋 (1933) 11 月 4 日 圖ラズモ著者ハ伊豆天城山八丁ヶ池附近デ本菌ヲ發見シタ。茲ニ本菌ガ本州北部ノミナラズ南部ニモ分布シテ居ルト云フ事ヲ報告スル。

20. *Puccinia Gentianae* (STR.) LINK.

1914 年 藤黒與三郎氏 (臺灣博物學會々報、第 19 號、p. 4, 1914) ハ臺灣新竹州李棟山中デ採集サレタさくまりんどう *Gentiana fasciculata* HAYATA ニ寄生スル銹菌ヲ本種ト檢定報告サレタガ、其後我國内デ同種ノ採集サレタ事ヲ聞カナイ。然ルニ今回橋岡良夫君ハ臺灣新高山々中デ (1933 年 7 月 9 日) にひたかりんどう *Gentiana scabrida* HAYATA 上ニ同菌ヲ發見サレタ。

蓋シ我國ニ於ケル 2 回目ノ發見デアリ、にひたかりんどうハ同種ノ新寄主植物デアル。

21. *Kuehneola japonica* DIET.

本種ハのいばら *Rosa polyantha* SIEB. et ZUCC. var. *genuina* NAKAI トてりハのいばら *Rosa Wichuriana* CRAP. ノ葉・葉柄・新芽・新梢・果實等ニ寄生シ、本州各部・四國・九州・臺灣ニ廣ク分布シテ居ルト云フ事ハ既ニ多クノ人達ニヨツテ報告サレテ居ル。更ニ今回、著者ハ吉永虎馬氏ノ好意ニヨツテ同氏ガ四國山脈笹ヶ峯ト冠山トノ中間デ昨夏 (1933 年 8 月 21 日) 採集サレタふじいばら *Rosa fujisanensis* MAK. 上ニ寄生シタ本菌ノ美事ナ標品ヲイタグイタ。ふじいばらハ本種ノ新寄主植物デアル。

22. *Chnoopsora Itôana* HIRATS. f.

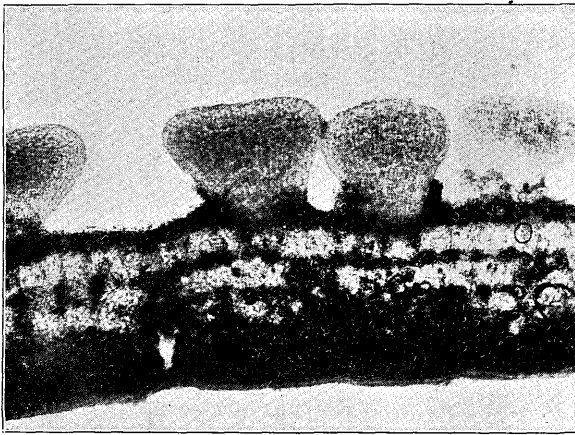
本種ハ著者ガ先年 (Jap. Jour. Bot. III, p. 297, 1927) こみやまかたばみ

*Oxalis Acetosella* L. = 寄生セルモノヲ基本標品トシテ新種ト認定記載シタモノデ、其後こみやまかたばみノミナラズみやまかたばみ *Oxalis Acetosella* L. var. *japonica* MAK. ニモ寄生シ、北海道・樺太・千島列島・本州・四國ニ廣ク産スル事ガ報告サレテ居ル。ナホ最近著者ハ橋岡良夫君カラ同君ガ臺灣新高山彙兒玉山々中デ（1933年7月8日）採集サレタありさんかたばみ *Oxalis Griffithi* EDGEW. et HOOK. f. ノ葉ニ寄生シタ本菌ヲ送ラレタ。ありさんかたばみハ本種ノ新寄主植物デアリ、臺灣ニ於ケル同菌ノ發見ハコレガ最初デアラウ。

又、近時、K. E. MURASHKINSKY, W. TRANZSCHEL 兩氏カラ送附ヲ受ケタ2標品（何レモこみやまかたばみニ寄生）ニヨツテ本種ガ露領沿海州ニモ分布シテ居ル事ガ判明シタ。

### 23. *Chrysomyxa expansa* DIET.

本種ハ1900年ニDIETEL氏(ENGL. bot. Jahrb. XXVIII, p. 288, 1900



第4圖 *Chrysomyxa expansa* DIET. ノ冬胞子堆(えぞしやくなげノ葉ノ裏面ニ生ジタモノヲ、葉面ニ直角ニ切斷シテ撮影ス)(北海道石狩國落合デ採集)

ガ命名記載サレタモノデアツテ、其ノ基本標品ハしやくなげ *Rhododendron Degronianum* CARR. ニ寄生シ、草野俊助博士ガ1899年6月29日ニ日光デ採集サレタモノデアル。其後同菌ハしやくなげノミナラズうすきしやくなげ *Rhododendron Fauriae* FRANCH. 及ビえぞしやくなげ *Rh. Fauriae* var. *roseum* NAKAI ニモ寄生シ北海

道、本州中部北部ニ廣ク分布シテ居ル事ガ報ゼラレテ居ル。

尙、今回橋岡良夫君カラ同君ガ臺灣新高山中デ採集サレタもりしやくなげ *Rhododendron Morii* HAYATA トニひたかしやくなげ *Rh. pseudochrysanthum* HAYATA ノ葉ニ寄生シタ *Chrysomyxa* 菌ノ2標品ヲ送ラレタガ、著者ハコレヲ *Chrysomyxa expansa* DIET. ト檢定スル。因ニもりしやくなげトニひたか

しやくなげノ兩植物共ニ同菌ノ新寄主デアリ、同種ノ臺灣ニ産スル事ノ報告ハ今回ガ初メテデアル。ナホ同種ハヒマラヤ地方ニ産スル *Chrysomyxa himalensis* BARCL. ト非常ニ近縁デアル事ハ注目ニ値スル。

#### 24. *Tranzschelia Pruni-spinosae* (PRES.) DIET.

此ノ銹菌ハ全世界ニ廣ク分布シテ居ルモノデ從來 *Puccinia Pruni-spinosae* PERS. ナル學名デ呼バレテ居ルガ、著者ハ ARTHUR (Résult. Sci. Congr. Internat. Bot. Vienne [1905], p. 340, 1906), DIETEL (Ann. Myc. XX, p. 30-31, 1922) 兩氏ノ意見ニ從ヒ *Tranzschelia* 屬ヲ用ヒ、種名ハ萬國命名規約ニ基イテ *Puccinia Pruni-spinosae* カラ採リ上記ノ學名ヲ採用スルノガ妥當デアルト考ヘル。

我國デハ本菌ハ李・梅・櫻・桃・扁桃等ノ葉上ニ其ノ夏孢子冬孢子兩時代ヲ經過スルト云フ事ハ植物病理關係ノ書物ニ散見スルガ、今日迄同菌ニ就テノ確カナ學術的記錄ガマコトニ尠ク、時ニ *Puccinia Pruni-Persicae* HORI ト混同サレテ居ツタ場合ガ多イノデアル。

*Puccinia Pruni-Persicae* HORI ナル菌ハ 1912 年堀正太郎氏 (Phytopathology, II, p. 144, 1912) ニヨツテ桃ノ葉ニ寄生スル材料ニ基イテ新種ト認定記載サレタモノデアルガ、其後、著者ハ毎年鳥取附近ノ桃ノ葉ニ發生スル銹菌ト其他各地カラ得タ材料ニ就テ詳シク調べテ見ルト、堀氏ガ *Puccinia Pruni-Persicae* ノ夏孢子時代トサレテ居ルモノハ *Tranzschelia Pruni-spinosae* ノ同時代デアリ、堀氏ガ *Puccinia Pruni-Persicae* ノ冬孢子トシテ記載サレテ居ルモノト同根關係ノアル夏孢子時代ハ全く別ニ存在スル事ガ判明シタ。此ノ事實ハ著者ガ發見シタト殆ンド同時ニ中華民國ノ載芳瀾教授 (金陵學報, II, p. 172-173, 1932) ガ彼國產ノ桃ニ寄生スル菌ニ就テ發見指摘シ詳細ニ報告サレテ居ル。

堀氏ハ如何シテ斯様ナ誤リニ陥ツタカ？ コレハ同ジ桃ノ葉ニ兩菌ガ一緒ニ生ズル事ガ時ニアルタメト特ニ桃ノ葉上デハ *Tranzschelia Pruni-spinosae* ノ冬孢子時代ノ形成サレル事ガ稀レデアルカラデハナカツタト愚考スル。

著者モ先年、吉永虎馬氏ト共著ノ “A list of Uredinales collected in the Province of Tosa” (植物學雜誌, XLIV, p. 627-667, 1930) 中デ桃ニ寄生シタ *Tranzschelia Pruni-spinosae* ノ夏孢子時代ヲ *Puccinia Pruni-Persicae* HORI ト誤認報告シタ事ガアル。著者ノ手許ニアル我國產標品ノ中デ *Tranzschelia Pruni-spinosae* ト檢定シタモノハ次ギノ採品デアル。

もも *Prunus Persica* SIEB. et ZUCC. ニ寄生——出雲國松江 (平塚)。備中國

新山村(桑名伊之吉)、倉敷(上村穰)。安藝國八重(後藤和夫)。因幡國鳥取(平塚)、宇倍野村(平塚)。土佐國三里村(吉永虎馬)。伊豫國吉田町(木村勝太郎)。

又、著者ハ越前國東浦村ノ雜木林ノ中デやまざくらノ1種ラシイモノノ葉(葉ノミデ種類不詳)ニ見事ニ同菌ノ冬孢子ノ形成シテ居ルモノヲ發見採集(1931年10月18日)シテ居ルガ、李・梅等ノ葉ニ本菌ノ寄生シタモノハ所有シテ居ラス。

ナホ日本領土内ニ産スル事ノ知ラレテ居ル *Tranzschelia* 屬ノ他ノ種類ハ次ギノ2種、即チ *Tranzschelia fusca* (PERS.) DIET. (をきなぐさ、きくざきいちげニ寄生) ト *Tranzschelia Thalictri* (CHEV.) DIET. (あきからまつニ寄生) トデアル。*Puccinia Pruni-Persicae* 菌ニ就テハ更ニ稿ヲ更メテ論ズル事トスルガ同菌ノ冬孢子ハ頗ル特異ナ性質ヲ有シテ居ル。

#### 25. *Uromyces Miurae* SYDOW.

くろゆり *Fritillaria camschatcenseis* KER. ヲ寄主トスル本種ハ1913年 SYDOW 氏 (Ann. Myc. XI, p. 94, 1913) ニヨツテ三浦密成(道哉)氏ガ信州白馬岳山中デ採集サレタ標品ニ基イテ命名記載サレタモノデアリ、其後伊藤誠哉博士 (Jour. Coll. Agric. Hokkaido Imp. Univ. XI, p. 260, 1922) ニヨツテ信州八ヶ岳(三宅氏勉採集)ニモ産スル事ガ報ゼラレタ。尙、REES (Amer. Jour. Bot. IV, p. 371, 1917), ARTHUR (N. Amer. Fl. VII, p. 442, 1921) 氏等ハ本菌ガ Alaska, British Columbia, Washington 州ニモ産スル事ヲ報告シテ居ル。

本菌ノ我國ニ於ケル記録ハ上記ノ信州白馬岳(三浦氏採集)ト八ヶ岳(三宅氏採集)デ採集サレタモノニ基イタモノノミデアツテ、他地デ發見採集サレタ事ヲ聞カヌガ著者ハ著者自身ノ採集ニ係ル次ギノ3標品ヲ所有シテ居ル。即チ1) 北海道膽振國支勿湖畔ニテ1925年7月20日採集、2) 信州八ヶ岳山麓硫黄岳ニテ1933年7月27日採集、3) 信州木曾駒ヶ岳ニテ1931年8月9日採集。此等ノ標品ニヨツテ本菌ハ北海道ニモ産シ、又信州デハ其ノ寄主デアルクロゆリガムシロ稀品ニ屬スルニモ係ラズ各地ニ産スル事ガ判ツタ。

#### 26. *Uromyces japonicus* BERK. et CURT.

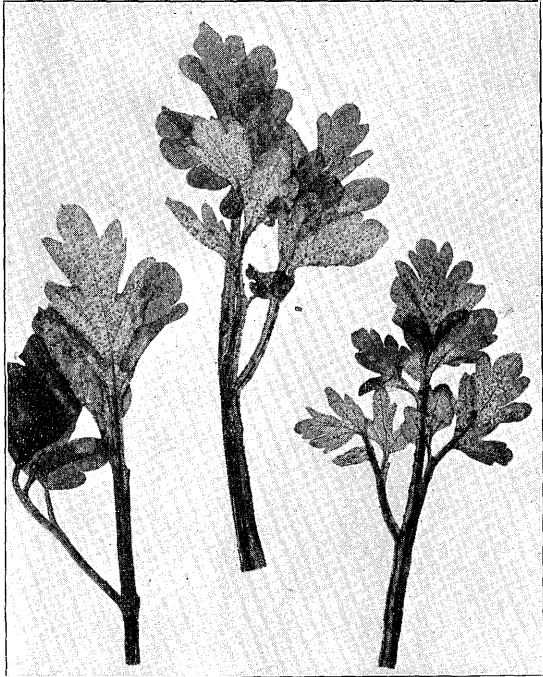
ぎやうじやにんにく *Allium Victorialis* L. ヲ寄主トスル本菌ハ國內デハ南樺太・千島列島・北海道ニ廣ク分布シテ居ル事ガ報告サレテ居ルガ更ニ著者ノ採品中ニ信州燕岳山中(中房川上流)(1930年7月30日採集)デ採集シタモノガアルノデ本州中部ニモ分布シテ居ル事ガ判ツタ。

尙、本種ノ基本標品ハ Charles WRIGHT 氏ガ今ヲ去ル約80年前北海道函館附近デ採集サレタノデアルト云フ事ニナツテ居ルガ、著者モ又1925年5月

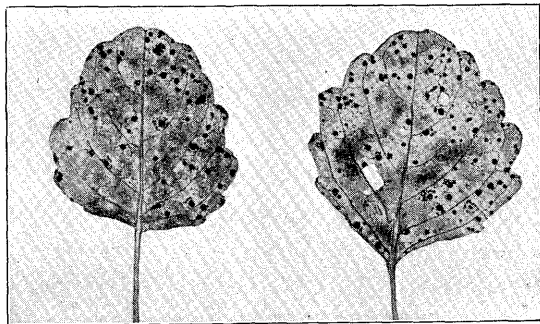
30 日＝函館郊外立待岬附近デ同菌ノ銹子腔・冬孢子兩時代ヲ發見シ多量ニ採集シタ。著者ノ同菌ヲ發見採集シタ附近ハ非常ニ眺望モヨク昔ノ儘ニ保存サレテ居ルトコロデモアリ、寄主デアルぎやうじやにんにくガ非常ニ澤山自生シ銹菌モ素人ニデモスグ眼ニツク程デアツタノデ、WRIGHT 氏ガ採集サレタ場所モ或ハコノ邊デハナカツタカト思ツタリシテ興味深ク感ジタ。因ニ WRIGHT 氏ノ函館ニ於ケル採品ニ基イテ BERKELEY, CURTIS 兩氏 (Proc. Amer. Acad. Arts & Sci., IV, p. 126, 1858) ガ本菌ヲ命名記載サレタノガ我國産銹菌ノ學界ニ公ケニサレタ嚆矢デアル。

27. *Puccinia Nolitan-geris* CORDA [= *Puccinia argentata* (SCHULTZ.) WINT.]

本菌ハ從來我國領土内デハ其ノ夏孢子冬孢子兩時代ヲつりふねさう *Impatiens Taextori* MIQ. トきつりふね *I. Nolitanger* L. ノ兩植物上ニ經過シ、南樺太・千島列島・北海道・本州・四國ニ廣ク分布シテ居ル事ガ知ラレテ居ル。ナホ昨夏橋岡君ハ臺灣阿里山デ (1933 年 7 月 12 日) にひたかつりふね *Impatiens uniflora* HAYATA ニ寄生スル同菌ヲ



第5圖 れんぶくさうニ寄生シタ *Puccinia Nolitan-geris* CORDA ノ銹子腔時代 (北海道札幌デ採集)



第6圖 きつりふねノ葉ニ寄生セル *Puccinia Nolitan-geris* CORDA ノ冬孢子堆 (北海道札幌デ採集)

發見採集サレタ。にひたかつりふねハ此ノ銹菌ノ新寄主植物デアリ、同菌ノ臺灣デ發見サレタノハ今回ガ初メテデアル。

本種ハ異種寄生性ヲ有シ、其ノ銹子腔時代ヲれんぶくさう *Adoxa Moschatelina* L. 上デ經過スル事ガ明カニサレテ居リ、著者モ此ノ事實ヲ接種試験ニヨツテ確メタ事ガアル(植物學雜誌、XLVII, p. 713, 1933)。ナホ、同菌ハれんぶくさうニ寄生スル *Puccinia Adoxae* HEDW. f., *P. albescens* PLOWR. ノ兩菌ニ親縁關係ヲ有シ、此等3菌ノ冬孢子ノ形態ハ酷似シテ居ル。

#### 28. *Ravenelia ornata* SYDOW.

最近橋岡良夫君ハ同君ガ昭和9年(1934)1月4日臺灣高雄州四重溪デたうあづき *Abrus praecatorius* L. ノ葉上ニ發見採集サレタ *Ravenelia* 屬ノ1種ヲ *Ravenelia ornata* SYD. ト檢定サレ、其ノ標品ヲ著者ノ許ニ送ラレタ。*Ravenelia ornata* ノ我國領土内デ採集サレタノハ今回ガ初メデアル。

本種ハ SYDOW 氏 (Ann. Myc. IV, p. 437, 1906) ガ初メテ命名記載サレタモノデ、ソノ基本標品ハ E. J. BUTLER 氏ガ印度 Dehra Dun デ採集サレタ *Abrus pulchellus* 葉上ノ冬孢子時代デアル。其後、SYDOW (Monogr. Ured. III, p. 235, 1914), BUTLER & BISBY (Fungi of India, p. 77, 1931), SYDOW & PETRAK (Ann. Myc. XXVI, p. 418, 1928; XXIX, p. 164, 1931) 諸氏ニヨツテ同菌ハ *Abrus pulchellus* ノミナラズ、たうあづきニモ寄生シ、印度・セイロン島・フィリッピン諸島ニ廣ク分布シテ居ル事ガ報告サレテ居ル。

## 日本産たんぽぽ屬ノ研究 (其四)

小 泉 秀 雄

H. KOIDZUMI: *Taraxacum* Studies in Japan (IV)

### 第三章 たんぽぽ屬ノ分類學的特徴 (分類總論) ノ續キ

iii) 總苞 ハ總花托ノ外側周面ニ着生セル鱗片狀物ノ總稱デ、其一片ヲ總苞片ト稱シ上下二大列(稀ニ瓦列シ上下ノ區別ガナイ)ニ排列シ、自ラ内外二列群ニ纏テキル、外下方群ヲ總苞外列、内上方群ヲ總苞内列ト稱シ凡テ葉ノ變形セシモノデ、鱗片集合ノ狀態ハ恰モ根上ノ短莖上ニ葉ノ叢生鱗片スルニ比スベキモノデアル。觀察ノ要點ハ 1) 大サ(長サト巾サノ測定、長サハ底部ヨリ内列片最長者上端マデノ縦徑、巾サハ横徑ノ最大部デ多クハ内列片上部デアル)